

ふるさと探訪

第47回 武丈公園



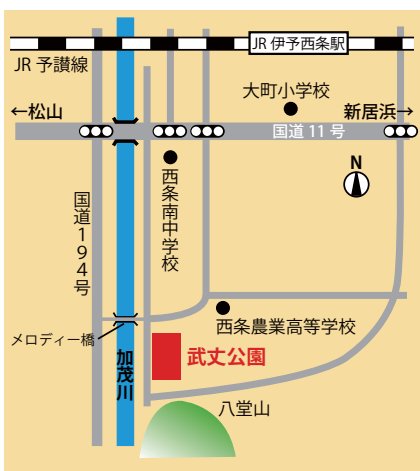
愛媛県下で有数の桜の名所として知られている武丈公園には、約100種類1500本といわれる桜が、春には見事な花のアーチをつくり、訪れた人々を魅了しています。

また、芝生に覆われた河川敷では、お花見客が思い思いにお弁当を広げ、楽しそうに会話をしたり、子どもたちが元気に走り回ったりと、加茂川のせせらぎや満開の桜と相まって和やかな雰囲気を感じさせています。

武丈の地名の由来は、天保年間に明神木村の庄屋であり風流な歌人でもあった加藤定右衛門が、この地をこよなく愛し、付近に多くの桜を植え、風月を楽しみながら一生を送ったことから、人々はこの桜を定右衛門の俳号をとって武丈桜と呼び、この地名が「武丈」となったと伝

えられています。
武丈公園の下流の伊曾乃橋（通称…メロディー橋）には、欄干に鉄琴が取り付けられており、「さくらさくら」と「ふるさと」の2曲が奏でられるようになっています。この辺りから見る武丈公園は、加茂川の清流と背後に迫る八堂山の景色が京都の嵐山に似ていることから「四国の小嵐山」とも呼ばれています。

■住所 福武甲
■駐車場 あり（無料）



▲ 桜のアーチ
(H20. 4. 6 撮影)



◀ 河川敷で遊ぶ子どもたちと
背後の八堂山
(H18. 4. 6 撮影)